弘前大学教育学部紀要　第125号：７～17（2021年３月）
Bull. Fac. Educ. Hirosaki Univ. 125：７～17（Mar. 2021）

小学校就学前教育における図書教材の実態に関する調査的研究
― 弘前大学教育学部附属幼稚園の場合―

Research on the Current Status of Library Materials in Pre-school Education: the Case Study of the Kindergarten Attached to the Faculty of Education, Hirosaki University

田　中　拓　郎*
Takuo TANAKA*

概　要

本稿では小学校就学前教育における図書教材に視点をあて，その実態調査を行うとともに，図書教材に関わる幼保小連携の在り方について考察した。弘前大学教育学部附属幼稚園の図書教材の実態として，主に３点のことが言える。１点目として図書教材の総数からは，保育室全体の傾向としてお話や科学的読み物，雑誌が多いが，図書コーナーでは圧倒的にお話が多い。２点目として本棚に配置された表紙が見える図書教材の傾向として，各保育室には幼児の実態や発達を踏まえた図書教材が並べられている。特に５歳児保育室では，小学校入学を見据えた図書教材も見られる。３点目として小学校低学年の読みの学習で教材文として扱うお話の半分近くが，附属幼稚園の図書教材として配置されている。そのお話の中から「おおきなかぶ」について附属幼稚園の幼児に聞き取り調査を行ったところ，「知っている」と答えた幼児は全体の約半数に及んだ。このことは他園の幼児においても小学校で学習する時，「おおきなかぶ」は「知っているお話」の可能性がある。確かに低学年読みの学習において，子どもの学習環境の変化，また「話しことば」から「書きことば」といった学ぶ言語形態の変化に伴う戸惑いなどから，「知っているお話」は子どもに心理的安心感をもたせる可能性がある。一方，これまで短時間で「ストーリー（出来事）」を楽しんできた就学時前教育と，数時間かけて言葉に立ち止まったり言葉の使い分けに気付いたりなど「言葉」そのものに着目する小学校読みの学習との間には，「知っているお話」がゆえに同じお話の扱いに対するギャップがある。そのギャップをどのように埋めていくかの吟味が小学校教育，小学校就学時前教育の双方にとって必要となるとともに，幼保小連携の在り方を考える一つの視点ともなる。

キーワード：お話　　科学的読み物　　幼保小連携　「おおきなかぶ」　ストーリー（出来事）

１　はじめに

幼稚園や保育所・保育園（認定こども園も含む）には，童話や科学的読み物などをはじめとした幼児向けのたくさんの図書教材（本稿では紙媒体の本の総称として，図書教材と表記する）が備え付けられている。その目的として考えられることは，幼児に様々な図書教材を触れさせ，図書教材の楽しさを味わわせることであろう。なぜなら，図書教材の楽しさを感じる過程を通して，言葉の獲得，知識の獲得，さらには情操の発達に結び付いていくからである。保育者や保護者が図書教材の「読み聞かせ」を行っているのはその一例[1)]であろう。

幼稚園教育要領（平成29年３月告示）によると，幼児園教育において育みたい資質・能力の一つである「言葉」では，図書教材に関して下記の内容及び内容の取扱いを示している。

＊弘前大学教育学部国語教育講座
Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

内容

⑼　絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像をする楽しさを味わう。

内容の取扱い

⑶　絵本や物語などで，その内容と自分の経験とを結び付けたり，想像を巡らしたりするなど，楽しみを十分に味わうことによって，次第に豊かなイメージをもち，言葉に対する感覚が養われるようにすること。

⑷　幼児が生活の中で，言葉の響きやリズム，新しい言葉や表現などに触れ，これらを使う楽しさを味わえるようにすること。その際，絵本や物語に親しんだり，言葉遊びなどをしたりすることを通して，言葉が豊かになるようにすること。　（下線引用は，田中）

下線部からも小学校就学前教育においては，図書教材の「楽しさを味わう」，また図書教材に「親しむ」ことが重要であることがわかる。

この図書教材の楽しさを味わわせることなどに関連して，高木和子[2]は「情緒的交流のある絵本の読み聞かせ」を提示した。その際，岡本夏木の一次的ことばと二次的ことばの考えを踏まえ，「二次的ことばがほんとうの意味で豊かに使えるには，一次的ことばの世界も豊かになっていかなければならない」，「絵本の読み聞かせにも，絵本をはさんでのことばのやりとりのある話し合いと，絵本に書かれた物語の読み聞かせの二つに区別される。岡本の危惧は，後者の活動が読み手と子どもにとって楽しいものになるかどうかに関連する」と述べる。

このことは，大人が義務的に絵本を読むのではなく（絵本を読むこと自体が目的化するのではなく），幼児に対して楽しさや親しみをもたせるような読みの姿勢や活動の重要性を示している。

では，高木が主張する「情緒的交流のある絵本の読み聞かせ」の重要性やその基とした岡本の一次的ことばの発達に大きく関わる小学校就学前の図書教材にはどんな傾向があるのだろうか。小学校就学前の図書教材は，小学校での学習，例えば読解指導や読書指導などと，どのようにつながっているのだろうか。

山元悦子[3]は「幼児の読む行為と就学後の読むことの教育に連続性を持たせるため」として，下記の通り述べている。

絵本を読む読み手と幼児の間に生まれる，信頼を基盤にした相互作用による言葉の創生と同様なことが，教室でひとつのテキストをみんなで読むことでも起きているのではないだろうか。（中略）そのためには，小学校の読むことの授業を学習課題解決・精読スタイルから，子どもの考えがつながり，広がる創発的スタイルへと転換することが必要なのではあるまいか。創発的スタイルの学習では，わくわくする発見や，はっとする瞬間が生まれる。それは楽しいものである。読んで感じたことを出し合い共に楽しむ学習をしくみ，その結果子どもたち自身が自分にとって読書の意味を自ら見いだすように促すこと。それを今後の小学校の読書教育に求めたい。

山元は，就学時前の読み聞かせと小学校読解指導，読書指導に連続性をもたせるために，小学校教育に「創発的スタイル」を提言している。

また読書教育への提言として八木雄一郎[4]の論考がある。八木は小学校段階における「読解」と「読書」関連に対して言語活動に着目し，「読書教材・単元」の言語活動を①「紹介・推薦的な交流活動」②「ゲーム的な交流活動」③「解釈・鑑賞的な交流活動」に分類した。特に②のゲーム的な交流活動に関しては下記の通り述べている。

一見クイズやロールプレイといった「遊び」の側面が際立つことが想定されるが，しかしそうした「遊び」が可能となるには，教材の内容把握や登場人物の関係・心情理解ができていることが前提条件となる。（中略）「遊び」の過程に「学び」（＝読解）が潜んでいる単元といえる。

この八木の論考を「遊び」を中心とした就学時前教育にあてはめてみると，幼児の発達に即した「ゲーム的な交流活動」は可能であり，更なる豊かな読書教育の実践の一つとして，また小学校教育をつなぐ言語活動の一つとして考えることができる。

これらの先行研究を踏まえ，本稿では１園（弘前大学教育学部附属幼稚園）ではあるが，就学時前教育に関わる図書教材のデータを収集するとともに，図書教材に関わる幼保小連携の在り方について考えていく。

２　研究の目的

小学校就学前教育における図書教材の実態を調査

し，図書教材に関わる幼保小連携の在り方を考えていく。

なお調査対象は，弘前大学教育学部附属幼稚園に備え付けられている図書教材とする。

（なお本来であれば，他の幼稚園，保育所・保育園の図書教材の傾向も調査することが精度を高めることにつながるが，コロナ禍の中での調査は難しく，弘前大学教育学部附属幼稚園１園での調査とした。）

３　研究の方法及び調査日

弘前大学教育学部附属幼稚園に備え付けられている図書教材のデータベース化を行い，実態を考察する。

調査する部屋は，下記の４つの場所とする。

①３歳児保育室　　②４歳児保育室

③５歳児保育室　　④玄関前にある図書コーナー

なお図書教材のデータベース化にあたり，保育室及び図書コーナーの図書教材を写真（デジタルビデオカメラ）撮影した。

調査日は，令和２年10月26日（月），10月27日（火），11月２日（月），11月９日（月），11月12日（木）の５日間である。

４　図書教材が置かれている場所の状況について

①３歳児保育室

３歳児保育室は，「あおりんご」組と「あかりんご」組の２組設置されている。いずれも保育室の中に図書教材が置かれている。

②４歳児保育室

「さくら」組の１クラスである。図書教材は，保育

（写真１　あかりんご組の本棚）

（写真２　さくら組の本棚）

（写真３　やま組の本棚①）

（写真４　やま組の本棚②）

（写真５　図書コーナーの本棚）

室の中の出入り口付近に置かれている。

③５歳児保育室

「やま」組の１クラスである。図書教材は，入り口近くの廊下にマットを敷いてその上に置かれている。

④図書コーナー

玄関前に大きな本棚がある。本棚の向かいには長椅子が２脚あり，長椅子に腰かけて読むことができる。

５　調査結果

５－１　ジャンルごとの冊数と割合から考えられる図書教材の傾向

保育室や図書コーナーには，本棚に表紙が見えるように横向きに置かれている図書教材もあれば，背表紙が見えるように縦向きにまとめて置かれている図書教材もある。配置の形態は様々であるが，これらを全てデータベース化し，ジャンルごとにまとめたのが表１である。

表１を説明する。縦軸には保育室名を，横軸には図書教材のジャンルを示した。ジャンルとして，創作絵本や童話などの読み物（以後，お話とする），理科的･社会科的な科学的読み物（以後，科学的読み物とする），図鑑，その他（折り紙の折り方など），雑誌（毎月発行されるもので季節に即した創作読み物や科学的読み物，歌や迷路などが掲載されている）の５つのジャンルとした。

なお本来であれば，日本十進分類法（NDC）にも基づく分類が求められるであろうが，本稿では小学校就学前教育における図書教材の実態を探ることから，日本十進分類法のような細分化した分類ではなく，上記の５つのジャンルに基づいても図書教材の実態として妥当性・客観性を欠くことがないと判断した。

①３歳児保育室の図書教材の傾向

総数124冊のうち，一番多いのはお話64冊（52％）で半数を占める，次いで科学的読み物31冊（25％），雑誌28冊（23％），図鑑１冊であった。その他に属する図書教材はなかった。

なお，お話の64冊のうち，単行本（いわゆるハードカバー本）は３冊のみで，他は例えば「こどものとも年少版」など毎月発行される月刊誌であった。

②４歳児保育室の図書教材の傾向

総数177冊のうち，一番多いのはお話108（61％），次いで科学的読み物37冊（20％），雑誌24冊（14％），図鑑６冊（4％），その他２冊（1％）であった。

３歳児保育室同様，多い順番はお話，科学的読み物，雑誌であった。しかし，３歳児保育室の図書教材と比べると，お話の冊数が大幅に増えている。３歳児保育室と４歳児保育室の総数の違いは，ほぼお話の冊数とも言える。

また，図鑑が１冊から６冊と増えたこと，その他として折り紙に関わる図書教材もあった。

③５歳児保育室の図書教材の傾向

総数171冊のうち，一番多いのはお話と科学的読み物がともに64冊（38％），次いで雑誌18冊（10％），その他16冊（９％），図鑑９冊（５％）であった。

この５歳児保育室の図書教材からは，３歳児保育室，４歳児保育室とは大きく異なる点が見られる。まず，お話と科学的読み物が同じ割合であること，つまり科学的読み物が増えたことである。

表１　保育室及び図書コーナーにある本の冊数及び割合

ジャンル／場所	お話	科学的読み物	図鑑	その他		雑誌	総　数（割合）
				折り紙	言葉		
３歳児保育室	64 (52)	31 (25)	1 (－)		0 (－)	28 (23)	124 (8)
４歳児保育室	108 (61)	37 (20)	6 (4)		2 (1)	24 (14)	177 (12)
５歳児保育室	64 (38)	64 (38)	9 (5)	4 (2)	12 (7)	18 (10)	171 (12)
図書コーナー	830 (81)	91 (9)	30 (3)		70 (7)	0 (－)	1,021 (68)
総　数（割合）	1,066 (71)	223 (15)	46 (3)		88 (6)	70 (5)	1,493 (100)

また，その他の図書教材が増えた。その他を詳しく見ると，折り紙に関わる図書教材が４冊，言葉に関わる図書教材が12冊となっている。特に，言葉に関わる図書教材（書名は「ことばのえほん」）が初めて５歳児保育室に備え付けられたことは特筆できる。

④図書室コーナーの図書教材の傾向

総数1021冊のうち，一番多いのはお話の830冊(81%)，次いで科学的読み物91冊（９%），その他70冊（７%），図鑑30冊（３%）であった。雑誌はなかった。

冊数で比較すると，保育室は120～180冊程度，図書コーナーでは1000冊程度と，所有冊数の違いが明確である。附属幼稚園にとって，この図書コーナーは本格的な図書の配置場所であることがわかる。

次に割合でみると，保育室の中では４歳児保育室のお話の割合が61%と最も高いが，図書コーナーではそれ以上の81%と圧倒している。また，この図書コーナーでは，科学的読み物は９%，その他（折り紙など）７%，図鑑３%といずれも10%に届かない。さらには雑誌が全くない。雑誌は各保育室で楽しむという考えか。

⑤ジャンル別の総数及び割合から

図書コーナーの圧倒的な冊数のお話により，全体でもお話が一番多い。次いで科学的読み物，その他と続く。図鑑は一番少ないという結果であった。

５－２　本棚に配置された表紙が見える本（横向きに並べられた）からみた図書教材の傾向

一般的に図書館や図書室の本棚に置かれる図書教材は，背表紙が見えるように並べられる。その方がたくさんの図書教材を置くことができるからである。横向きに表紙が見えるように置かれる図書教材は，特別に着目してほしい，また新しく購入したので読者に注目して欲しいことによるものと考えられる。

このことから，本節では横向きに置かれた表紙が見える図書教材に着目する。また，写真１～５からわかるように，横向きに表紙が見えるように置かれた位置（高さ）が，幼児にとって一番目にしやすい，手に取りやすい位置になっている。

そこで本節では，各保育室，図書コーナーの本棚の表紙が見える場所にどんな図書教材が配置されているかを見ていく。（表２参照）

①３歳児保育室（表２－１）

表紙が見えるような三段の本棚（写真１参照）が配置されている。お話は４冊，科学的読み物は５冊，雑誌が１冊置かれている。ジャンルに関わらず，はっきりした絵や写真で幼児の目をひく表紙の図書教材である。

先の３歳児保育室の総数ではお話が２倍近く多かったが，ここでは科学的読み物の方が多い。しかし，科学的読み物５冊のうちの「たんぽぽレストランはだいにんき」「ハンミュウのみちあんない」の２冊はお話の世界にいるような絵で描かれており，物語的要素が強いものとなっている。お話の世界と類似している。また，他の科学的読み物の「しんかんせんではたらくひと」「だれのあし」「ゆきうさぎのふゆ」の３冊は，動物や乗り物の絵を見て楽しむものと思われる。

お話の中の「ケーキ」「トリカエールようひんてん」の２冊は色彩豊かな絵本であった。また，主人公が大きく描かれている。

以上から，３歳児保育室の表紙が見える図書教材の傾向として，「色彩豊かで，主人公が大きく表現された絵本」「物語的な要素が強いお話のような科学的読み物」「はっきりした絵や写真」の図書教材であると言える。

②４歳児保育室（表２－２）

３歳児保育室と同じ本棚（写真２参照）である。４歳児保育室の本棚には，お話が５冊，科学的読み物が３冊，図鑑１冊，その他１冊があった。

お話の中の３冊「たまごにいちゃん」「しろくまちゃんのほっとけーき」「しりくまちゃんぱんかいに」は，主人公が何をしたかはっきりしたお話なので，３歳児のようにページごとの絵を見て楽しむだけでなく，「絵を中心としながらも時間軸に沿ってストーリーも楽しめる本」である。

科学的読みの物は，写真が多く写実的である。ただし，３歳児保育室の本とそれほどの違いはない。その他の本は「おりがみあやとり」であった。

③５歳児保育室（表２－３，２－４）

保育室の廊下に設置された５歳児用の本棚（写真３，４参照）は，両面に図書教材が置ける。従って，両面を合わせて考えていく。

総数は19冊，内訳は，お話８冊，科学的読み物３冊，その他３冊，雑誌（付録も含む）３冊，図鑑２冊である。

表２－１　３歳児（あかりんご組）の本棚に横向きに置かれた図書教材

「ワンダーえほん」（雑誌）	「しんかんせんではたらくひと」（科学的読み物）	「ゆきうさぎのふゆ」（科学的読み物）
「トリカエールようひんてん」（お話）	「だれのあし」（科学的読み物）	「かぐやひめ」（お話）
「ケーキ」（お話）	「たんぽぽレストランはだいにんき」（科学的読み物）	「ハンミュウのみちあんない」（科学的読み物） 「ぺちゃくちゃバーブー」（お話）

表２－２　４歳児（さくら組）の本棚に横向きに置かれた図書教材

「はじめてのしぜんえほん」（科学的読み物）	「なぜなにＱＡこんちゅう」（図鑑）	「おりがみあやとり」（その他）	「たねのたびしぜん」（科学的読み物）
「さつまいもをほろう」（科学的読み物）	「うんどかいセブン」（お話）	「わんぱくだんのどんぐりまつり」（お話）	
「たまごにいちゃん」（お話）	「しろくまちゃんのほっとけーき」（お話）	「しりくまちゃんぱんかいに」（お話）	

表２－３　５歳児（やま組）の本棚に横向きに置かれた図書教材①

「なぜなぜのクイズ絵本」（科学的読み物）	「ねずみのおきょう（一年生のおはなし）」（お話）	「おおきなかぶ（一年生のおはなし）」（お話）
「こんちゅうチャンピオン」（お話）	「たことこま」（科学的読み物）	「ケロリンピック」（お話）
「はだかのおうさま」（お話）	「３びきのこぶた」（お話）	「キンダーブック」（雑誌）

表２－４　５歳児（やま組）の本棚に横向きに置かれた図書教材②

「キンダーブック」（雑誌）	「おもちゃのばった」（お話）	「すいぞくかん」（その他，折り紙）	「たべものずかん」（雑誌　付録）
「ことばのえほん」（その他）	「ことばのえほん」（その他）	「ポットくんとテントウくん」（科学的読み物）	
「乗り物」（図鑑）	「恐竜」（図鑑）	「おおきなはっぱ」（お話）	

表２－５　図書コーナーの本棚に横向きに置かれた本

㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚
「999 ひきのきょうだいのおとうと」（お話）	「かいじゅうぐうぐうのびっくりおすし」（お話）	「にげだしたパンがし」（ワンダーおはなし館）（お話）	「はらぺこ　あおむし」（お話）	「エルマーのぼうけん」（お話）	「サンタおじさんのいねむり」（お話）	「はみがき　れっしゃ　しゅっぱつしんこう」「おいもさんがね…」（お話）	「妖怪交通安全」（お話）
㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳
「999 ひきのきょうだい」（お話）	「りんごくんがね…」（お話）	「３人のちいさな人魚」（お話）	「うんどうかいがはじまった（くりのきえんのおともだち）」（お話）	「うみさち　やまさち（日本の神話）」（お話）	「妖怪遊園地」（お話）	「妖怪温泉」（お話）	「小学館の図鑑 NEO　大むかしの生物」（図鑑）

お話の中で特筆される図書教材は，「ねずみのおきょう」「おおきなかぶ」の２冊である。表紙に「一年生のおはなし」とある。小学校の１年生教室や図書室におかれてもいい本である。また，「はだかのおうさま」「３びきのこぶた」と，いわゆる名作がある。小学校を見据えた配置であろうと考えられる。

その他は，「ことばのえほん」と折り紙の本「すいぞくかん」である。「ことばのえほん」については先にも述べたが，この本も小学校を見据えた本であると言える。この本は，見出しとして「ことばであそぼう」「おぼえてたのしいことば」「つかってたのしいことば」「こえにだしてよもう」の４つから成る。その中でも「ことばであそぼう」の中には，「ようこそ！はんたいことばのくにへ」というページがある。「ふるい」「あたらしい」などのはんたいことばが載っている。さらに，「ながい」「○○○○」とクイズのように幼児に投げかけている箇所もある。

また，図鑑の２冊「乗り物」「恐竜」も小学校の図書室に配置されてもいいものである。

④図書室コーナー（表２－５）

縦５段，横８列の大きな本棚（写真５参照）が１つ備え付けられている。その中で，上から４段目と５段目に横向きに図書教材が置かれるようになっている。なお１つのマスに２冊置かれているところもあるが，その場合，一見して本の題名がわかる図書教材については書名を表記した。（㉙については，書名が明らかなので２冊表記した。）

全17冊のうち，16冊がお話である。残りの１冊は図鑑であった。お話16冊のうち，㉔「かいじゅうぐうぐうのびっくりおすし」と㉚㊱㊲の「妖怪シリーズ」は，１ページごとに「絵を見て楽しむ」図書教材である。残りの㉓「999ひきのきょうだいのおとうと」をはじめとした12冊は，絵を楽しむほかにストーリー性も楽しむ図書教材である。この図書コーナーでは，お話に触れることを求めていることがうかがわれる。

５－３　図書コーナーの図書教材全体からみた傾向

先の５－２では，図書コーナーの表紙が見える図書教材（上から４，５段目の本）について述べた。図書

表３　図書室コーナーにある本について

	①	②	③	④	⑤	⑥	
（本はなし）	お話（絵本） ・日本・世界 例「そらまめくんのベット」「フレデリック」	お話（絵本） ・日本・世界 例「おしゃべりなたまごやき」「サーカスがやってきた」	お話（絵本） ・日本・世界 例「かぐやひめ」「ピーターパン」	お話（絵本） ・日本・世界 例「（ディズニー）ピーターパン」「となりのトトロ」（宮﨑駿）	お話（童話絵本） ・日本・世界 例「100 万回生きたねこ」「三匹のこぶた」	お話（童話絵本） ・日本・世界 例「さるかに」「アンデルセンどうわ」	（本はなし）
⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
お話（絵本，神話） ・日本 例「てぶくろをかいに」「日本の神話やまたのおろち」	お話（絵本） ・日本 例「ねずみくん」「14 ひきのあさごはん」	お話（絵本） ・日本・世界 例「ゆきのひのころわん」「ひとりぼっちのこねずみ」	お話（絵本） ・日本 例「11 ぴきのねこ」	その他 例「ミッケ」「トリックアート」	お話･科学的読み物 例「ちいさなくれよん」「とりをみた」（はじめてであう科学絵本）	お話（絵本） ・日本・世界 例「つんつくせんせいとくまのゆめ」「ともだちや」	お話（童話絵本） ・日本・世界 例「たぬきのじどうしゃ」（はじめてよむ絵本）
⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒
科学的読み物 例「ハムスターのかいかたそだてかた」「しぜん　だんごむし」	その他・お話 例「たべるの　だいすき」（げんきをつくる食育絵本）「どろぼう　がっこう」	お話（絵本） ・日本・世界 例「つるにょうぼう」「サーカスのライオン」	お話（絵本） ・日本・世界 例「また　おこられてん」「わたしとあそんで」	図鑑 例「学研の図鑑宇宙」「小学館の図鑑 NEO」	図鑑･科学的読み物 例「学研の図鑑魚」「野の野鳥」（かがくのほん）	お話（絵本） ・日本・世界 例「こぶとり」「イソップ絵本うさぎとかめ」	お話･科学的読み物 例「ぐりとぐらのおきゃくさまおきゃくさま」「むしたちのおんがくたい」
㉓	㉔	㉕	㉖	㉗	㉘	㉙	㉚
お話・その他 例「ぐりとぐら」「どうぶつ　えかきうた」	お話（絵本） 例「くだもの」（福音館の幼児絵本）「たべたの　だあれ」	お話（絵本） ・日本・世界 例「よびごえ」（吉田遠心動物絵本シリーズ）「ピーターとおおかみ」	お話（絵本） ・日本・世界 例「12 か月のしかけえほん」「コロちゃんのたんじょうび」	お話（絵本） ・日本 例「ぐりとぐらのたんじょうび」「ノンタン」	お話（絵本） ・日本・世界 例「プーのあさごはん」（クマのプーさん　えほん）「ねずみのよめいり」	お話（絵本） ・日本・世界 例「やまなし」（日本の名作）「きざもぼうや」（絵本版シートン動物記）	お話（絵本） ・日本・世界 例「にんぎょひめ」（よい子とママのアニメ絵本）「ころころえほんどこにいくの？」
㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱	㊲	㊳
お話（絵本） 例「なんでも魔女商会　火曜日はトラブル」「ノンタン　おやすみなさい」	お話（絵本） ・日本・世界 例「おばけかな？」「もりのおかあさん」	（本はなし）	お話（絵本） ・日本・世界 例「こぐまの　くまくん」「おさるとぼうしうり」	お話･科学的読み物 ・日本 例「せんたく　かあちゃん」「じひびき」（吉田遠心動物絵本シリーズ）	お話（絵本） ・日本 例「きゅりゅうだいすき！　まいごのたまごはだれだろな」「おはなしのパペット大きなかぶ」	その他 例「命を大切にする心を育む絵本」	その他 例「おりがみえほんどうぶつ」「よいこのおりがみ　のりもの」

コーナーの本棚の１段目から３段目までは，図書教材を数多く置けるように縦向きに並べられている。

ここでは１～３段目の配置された図書教材の他に，４，５段目の棚の中に置かれている図書教材についても検討を加える。つまり，図書コーナーにある全ての図書教材を対象に検討する。図書コーナーにある全ての図書教材を検討することで，さらなる傾向がわかると考えたからである。（表３参照）

１段目は全てお話である。①②は創作絵本，③～⑥は，いわゆる名作や童話が配置されている。

２段目は，⑦は絵本と神話，⑧⑨⑩はお話，⑪はその他である。⑪は「ミッケ」「トリックアート」の本であることから，「絵を見て楽しむ」感が強い。⑫は３歳児向けの科学的読み物，⑬⑭はお話がある。

３段目は，⑮⑳㉒に科学的読み物がある。さらに⑲⑳には図鑑がある。お話は，⑯⑰⑱㉑㉒と１，２段目より少なくなっている。３段目は幼児が立ったまま図書教材をとりやすい場所であり，読み物だけでなく，科学的読み物への配慮も感じられる。

４，５段目の図書教材は，ふたのような木のカバーを開けない限り，直接幼児が目にすることはない。この２段から特筆されることは，お話が多いことである。㉓から㊱まで（㉝には図書教材がないので除く）お話の図書教材が置かれていた。㉓㉔㉗㉛は３歳児向けの幼児絵本が多い，㉖はしかけ絵本であった。㉙㉚は「やまなし」などの名作が並べられていた。㊳は折り紙の図書教材があった。

以上から特筆されることは，特に幼児が手にとりやすい場所である３段目にお話だけでなく，科学的読み物や図鑑が配置されていることであった。

５－４　小学校で学習するお話と就学時前教育における図書教材との関わりについて

先に稿者は，５歳児保育室の図書教材に一年生のお話として「おおきなかぶ」があることを述べた（５－２③）。本節では，小学校で学習するお話が附属幼稚園の図書教材として実際にどのくらい配置されているのか，また実際にその図書教材を「知っているお話」かどうかについての聞き取り調査を踏まえ，図書教材に関わる幼保小連携の在り方について考えていく。

なお「知っているお話」として，小学校１年生の全ての国語教科書に掲載されている「おおきなかぶ」と

表４　小学校のお話（光村図書）と附属幼稚園図書教材との関わり

小学校で学習する主なお話			附属幼稚園図書教材	
No	指導学年	教材名	図書教材としての有無	配置場所
1	1	おおきななぶ	○	５歳児保育室 図書コーナー
2	1	おむすびころりん	○	５歳児保育室 図書コーナー
3	1	くじらぐも	×	
4	1	たぬきの糸車	○	５歳児保育室
5	1	ずうっと，ずっと，大すきだよ	×	
6	2	スイミー	○	図書コーナー
7	2	お手紙	×	
8	2	スーホの白い馬	×	
9	3	きつつきの商売	×	
10	3	ちいちゃんのかげおくり	×	
11	3	モチモチの木	○	図書コーナー
12	4	白いぼうし	×	
13	4	一つの花	×	
14	4	ごんぎつね	○	図書コーナー
15	5	大造じいさんとガン	×	
16	6	やまなし	○	図書コーナー
17	6	海の命	×	

（計　７話）

する。この「おおきなかぶ」は夏休み前に扱われ，平仮名学習を終えた入門期指導のまとめ（学習過程において，話し言葉と書き言葉の双方を使用する教材）として重要な位置を占めている。

①小学校「読むこと」（読解指導）領域のお話と附属幼稚園の図書教材との関わり（表４参照）

小学校で学習するお話が附属幼稚園の図書教材として実際にどのくらい配置されているのかの結果が表４である。なお小学校で学ぶお話として，園児のほとんどが進学する附属小学校で使用している光村図書のお話，さらに読解指導に関わるお話とした。

表４からは，小学校で学習するお話17話のうち７話が図書コーナーや５歳児保育室の本棚にあることがわかる。また１・２年に限ってみると，全８話中４話が配置されていた。このことは，附属幼稚園から附属小学校に進学した低学年の子どもたちは，「知っているお話」，「読んだことがあるお話」が多い可能性がある。

②「おおきなかぶ」の実態調査から

先の①で「知っているお話」，「読んだことがあるお話」としての可能性について触れたが，本当かどうかは，実際に調査してみる必要がある。そこで附属幼稚園の全園児に聞き取り調査を行った。

（調査日は令和２年11月25～26日，各担任がクラス全体の中で聞き取りを行った。）

結果として「知っているお話」であると答えた幼児は，３歳児クラス９人中５人，４歳児クラス18人中11人，５歳児クラス24人中８人であった。（なお，５歳児クラスでは少しでも内容を話せた幼児を数えた。）総数として全園児51中24人，割合にして47％であり，約半数程度の幼児が「おおきなかぶ」は「知っているお話」であった。

③小学校国語教材「おおきなかぶ」と就学時前教育との連携について

ここでは「おおきなかぶ」をもとに、幼保小連携の在り方について考えていく。

小学校国語教科書会社の光村図書[5]及び教育出版[6]の指導書を見ると，「おおきなかぶ」と就学前教育との関わりについて下記のように述べている。（下線はいずれも田中）

幼児期に家庭や幼育園，保育所などで読んだり読み聞かせてもらったりして，内容を知っている児童も多いと思われる。（中略）登場人物の特徴や順番に関心をもたせながら本文と出会わせたい。また，一人ではなく友達と声に出して読むことの楽しさを味わうことができるように，単元の終末に発表の場を設けるようにすることで，見通しをもって学習に臨むことができる。（光村図書）

昨今，『おおきなかぶ』は，幼稚園や保育園の時代に劇化して親しんでいる児童も多くいる。小学校では，文字，文章の読みや登場人物の言葉を想像したり，人物になって表現したりすることをとおして，読むことの楽しさを味わわせたい。

（教育出版）

２社とも就学時前教育で扱われている可能性に言及している。下線部にあるように，就学時前教育では「保育所などで読んだり読み聞かせてもらったりして，内容を知っている」（光村図書），「劇化して親しんでいる」（教育出版）など，「聞くこと」を通して「ストーリーを知る」，ひいては「ストーリーを楽しむ」ことをねらいとしている。一方，小学校では「文字，文章の読みや登場人物の言葉を想像したり，人物になって表現したりすることを通して，読むことの楽しさを味わわせたい」（教育出版）のように，文字や文章に着目し「どのように述べられているか」「どんな表現が使われているか」といった，「言葉」そのものに着目するといった読みをねらいとしている。このことは就学時前教育での「聞くこと」から，小学校教育での「読むこと」へ変換・転換とも言える。

小学校教育における「おおきなかぶ」の学習で大切なことは，教師が就学時前教育との連携を意識しつつも，「学習」（授業）でなければ学べない学習内容を子どもに実感させることができるかどうかにかかっているのではないか。さらに述べると，就学時前教育における「絵本の読み聞かせ」活動などでは学べないものを，子どもが「学習」（授業）で実感できるかである。それは，子どもが「言葉」を意識できるかどうかではないか。教科書会社の指導書にもある通り，劇化することは就学時前教育においてもよく行われていることであり，小学校教育において新しく出てきた活動ではない。新しいのは「言葉」に着目する，意識することといった，子どもの「言葉」に対する自覚ではないか。

就学時前教育において，子どもは物語で起こった

「ストーリー（出来事）」は知っている。しかし，言葉に立ち止まって人物の心情を考えたり，場面に応じた言葉の使い分けに気付いたりするなど，「言葉」に着目して文章を「読むこと」は行っていない。小学校教育では，就学時前教育での「ストーリー（出来事）」を踏まえつつも，「言葉」として読み，「言葉」の面白さや楽しさに気づくこと，さらにそれを教室にいる他の子どもと共有することが大切となる。

その指導における鍵の一つとして，例えば世羅博昭の「目標の二重構造化論」[7] にみられるような意図的に子どもの言語活動の目標と教師の指導目標の異なりやズレを仕組みつつも，教師の目標がしっかり達成されるような言語活動を設定し，子どもの「言葉」に対する自覚を高めるような指導が大切となる。

6　まとめ

①図書教材の実態

本稿では３つの視点で小学校就学前教育における図書教材の実態を調査した。

１つ目の保育室及び図書コーナーの冊数と割合からは，大きく３点に集約される。①保育室全体として，お話や科学的読み物，雑誌が多い。特に雑誌は，図書コーナーにはないことから「見て楽しむ本」として意識的に置いていることがわかる。②３歳児保育室はお話と雑誌の割合が高いこと，４歳児保育室はお話や図鑑が多くなること，５歳児保育室は言葉の絵本がはじめて備え付けられていることである。③図書コーナーからは，圧倒的にお話の図書教材がある。

２つ目の本棚に配置された表紙が見える図書教材（横向きに並べられた本）からは，大きく２点に集約される。①保育室からは，幼児の実態や発達を踏まえた図書教材が並べられている。例えば，３歳児保育室の図書教材は「絵や写真を見て楽しむ本」，４歳児保育室の図書教材は「幼児が一人で手に取って見ることができるお話を中心とした楽しめる本」，「絵を中心としながらも時間軸に沿ってストーリーも楽しめる本」，５歳児保育室の図書教材は「小学校入学を見据えた本」である。②図書コーナーからは，まず「お話に触れさせたい」こと，さらにお話の中でも，絵そのものを中心として楽しむ図書教材，絵とともにストーリー性も楽しめる図書教材の双方に触れさせたいことがわかる。

３つ目の図書コーナーにある図書教材からは，お話が満遍なく置かれているものの，科学的読み物や図鑑が手に取りやすいところに多く置かれていた。このことは，お話だけでなく科学的読み物や図鑑のもつ事象や事柄への興味・関心，さらには知識の獲得に対する配慮もうかがわれる。以上から，図書教材の置き場所によって傾向に多少ながらの違いが見られる。

②図書教材に関わる幼保小連携の視点から

図書教材に関わる幼保小の在り方として，「おおきなかぶ」をもとにして考察した。２点に集約される。

「読むこと（読解指導）」領域のお話と附属幼稚園の図書教材との重なりは，特に低学年において見られた。このことは小学校で学習する際，「知っているお話」の可能性がある。「おおきなかぶ」は，就学時前教育においては読み聞かせなどの「聞くこと」の活動として扱われている。一方，小学校教育においては「読むこと」の学習として扱われている。このことは，日常生活に関わる「話しことば」を学ぶことを中心とした就学時前教育と，日常生活に関わらない新しい事柄・事象としての「話しことば」「書きことば」を学ぶ小学校教育の在り方とも関連する。いわゆる岡本夏木が指摘する一次的ことばとしての「話しことば」，二次的ことばとしての「話しことば」と「書きことば」の問題と通ずるところが「おおきなかぶ」を通してうかがわれる。

小学校国語学習の入門期にあたるお話「おおきなかぶ」は附属幼稚園の図書教材として２か所にあった。教科書会社の指導書には，就学時前教育においても取り上げられている可能性に言及している。就学時前教育の「聞くこと」から小学校教育での「読むこと」における学習において大切なのは，子どもがいかに「言葉」を意識して，また自覚して読むかである。そのためには，「言葉」に対する「楽しみ」「親しみ」などの実感をもたせることが連携の鍵になる。

7　終わりに

本稿では小学校就学前教育における図書教材に視点をあて，その実態を調査するとともに，図書教材に関わる幼保小連携の在り方について考察した。

特に図書教材に関わる幼保小連携の在り方として考えていくべきことが浮かび上がった。小学校低学年の読みの学習で教材文として扱うお話の約半分が，附属幼稚園の図書教材として配置されていた。また，そのお話の中から「おおきなかぶ」について附属幼稚園の幼児に聞き取り調査を行ったところ，「知っているお

話」であると答えた幼児は半数程度に及んだ。このことは他園の幼児にとっても小学校で学習する時，「おおきなかぶ」は「知っているお話」の可能性がある。このことは，これまで短時間で「ストーリー（出来事）」を楽しんできた就学時前教育と，数時間かけて言葉に立ち止まったり言葉の使い分けに気付いたりなど「言葉」そのものに着目する小学校読みの学習との間には，「知っているお話」がゆえに同じお話の扱いに対するギャップがある。そのギャップをどのように埋めていくかの吟味が小学校教育，就学時前教育の双方にとって必要となるとともに，幼保小連携の在り方を考える一つの視点ともなるのではないか。

ただし繰り返しになるが，調査対象が１園であることから，他の幼稚園，保育所・保育園の調査を行い，結果の精度を高めていくことが必要となる。機会を見つけて行っていきたい。

最後に，本調査にあたり協力してくだった弘前大学教育学部附属幼稚園の先生方に深く感謝申し上げます。

註

１）横山真貴子（「幼児期の絵本の読み聞かせ」『読書教育の未来』日本読書学会編　p 16 ひつじ書房）によると，ほどんど毎日読み聞かせを行う保護者の割合は，2015 年では 48．6％にのぼる。

２）高木和子「絵本の読み聞かせ」『言葉の心理と教育』福沢周亮編 1996　p 87 ～ 92　教育出版

３）山元悦子「就学前における読みの教育」『読書教育の未来』日本読書学会編　p 179 ～ 187　ひつじ書房

４）八木雄一郎「読解指導と読書指導」『読書教育の未来』日本読書学会編　p 169 ～ 177　ひつじ書房

５）『小学国語学習指導書１上かざぐるま』光村図書　p 191　2020

６）『ひろがる言葉小学国語１上教師用指導書解説・展開編』教育出版　p 194　2015

７）世羅博昭編『6 年間の国語能力表を生かした国語科の授業づくり』日本標準　2005

参考文献

・『幼稚園教育要領』（平成 29 年３月）
・岡本夏木『子どもとことば』1982　岩波新書
・岡本夏木『ことばと発達』1985　岩波新書
・岡本夏木『幼児期』2005　岩波新書
・小原啓樹，松嵜洋子「５歳児の文字の特徴と物語理解の関連」千葉大学教育学部研究紀要 p 115 ～ 1212019
・幼小連携に関わり「おおきなかぶ」を取り上げた論考として，光野光司郎他（「『想像力』をはぐくむことばの連携指導」東京未来大学　科学研究費補助金研究成果報告　2009）がある。

（2021．1．8 受理）